

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています

- 1 全酪新報2月1日号 全国酪農協会
牛群検定ワンポイントレッスン その20 分娩間隔情報の活用
現在の我が国の平均分間隔は437日と長期化しています。その反面、分娩間隔が411日以下の良好な牛も約半数います。分娩間隔情報から、繁殖改善のポイントを解説します。
- 2 酪農ジャーナル2月号 酪農学園大学エクステンションセンター
牛群検定だより(第11回) 利便性の広がったゲノミック情報
ゲノミック情報等を、繁殖台帳Webシステムを介して、スピーディーに情報提供します。
- 3 増刊デーリィジャパン2月臨時増刊号 デーリィ・ジャパン社
デーリィ・プロフェッショナル vol.1
お金をかけずに生産乳量を増やそう/お金をかけずに生産寿命を延長しよう
- 4 LIAJニュース1月号 (一社)家畜改良事業団
新しい牛群検定成績表について(その34) 次世代診断情報(授精結果診断)
次世代診断情報が新しくBCS等も診断できるようになりました。その詳細な活用方法を紹介します。

搾乳ロボットを導入されている農家のみなさまへ
牛群検定を活用してみませんか!

搾乳ロボットを利用されている農家、またこれから利用をお考えの農家にお知らせします。搾乳ロボットにおいても牛群検定を実施することが出来ます。要件は搾乳ロボットに自動サンプリング装置を設置するだけです。検定加入をご検討下さい。

また家畜改良事業団では搾乳ロボットでの検定についても検定加入後の諸経費を6ヶ月間サポートいたします(通称:お試し検定)。搾乳ロボットおよびお試し検定の詳細についてはお近くの牛群検定組合までお問い合わせ下さい。もちろん牛群検定が初めての農家には牛群検定の見方など最大限サポートをさせていただきます。

自動検定とは?

- ・自動検定とは搾乳ロボットにおける牛群検定のことを指します。
- ・検定員が搾乳ロボットに自動サンプリング装置をセットし、検定を開始します。
- ・検定によるサンプリングは12時間以上行う必要がありますが、その間に立会の必要はありません。検定が終了したら検定員が搾乳データとサンプル瓶を回収します。
- ・検定員は分娩、乾乳、牛の加除などの聞き取りを行います。

詳細は乳用牛群検定全国協議会のHPをご覧ください。
<http://liaj.or.jp/kyogikai/>

クラスターでの
助成対象です!

無人でのサンプリングだから
従来の牛群検定と比べ、
農家と検定員への負担は大きく軽減します!

自動サンプリング装置とは?

搾乳ロボットでは乳成分等の測定の為、写真の様な無人でサンプリングを行う機器を設置して検定を行います。



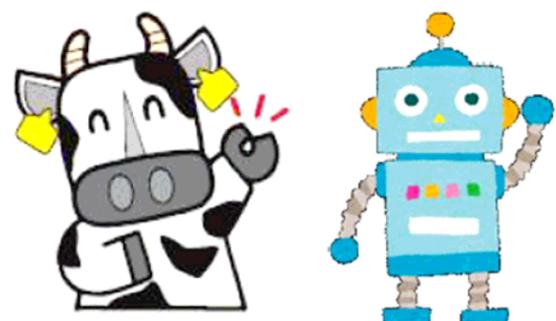
shuttle
販売元:(株)コーンズ・エージー、
(株)本田製作所



VMS(voluntary milking system)
販売元:デラバル



Mione Automatic Milking System
販売元:GEAオリオンファーム
テクノロジーズ株式会社
(使用承認申請中)



分娩後の子宮回復について

繁殖成績が分娩間隔437日と全国的に長期化しています。繁殖成績を改善しようという、受胎率ばかり取り上げられる傾向があります。しかし、受胎率とは授精を行った牛についての繁殖成績です。これはこれでももちろん大切ですが、受胎率以外でも大きな課題が2つあります。発情発見と分娩後の子宮の回復です。これら3つの技術は全く異なる性質のものです。子宮の回復が悪ければ、例えば分娩後100日たっても良い発情が来ません。こういった課題のある農家が、いくら受胎率をあげる人工授精技術を磨いても繁殖成績が改善しないのは自明のことです。今回は、分娩後の子宮の回復が悪い農家の特徴や対策を解説します。検定成績を上手に活用して、分娩後の授精をスムーズに行い、繁殖成績の改善に努めましょう。

1. 検定成績表を見てみよう！

図は検定成績表の「繁殖の状況」の表示を拡大したものです。あなたの検定成績表には図のように分娩後の授精が長期間空欄になっている牛はいませんか？その場合、もし、発情の見逃しでなければ、分娩後の子宮回復などが思わしくない場合があり、また、それにもなって発情が無い、もしくはあっても極めて弱い発情であるため授精を回避していると考えられます。こういったことが多数の牛にみられると繁殖成績を悪化させることになります。

2. 何を改善すれば良いか？

まず、183号牛のように難産や双子出産の場合は一般に子宮の回復に時間を要しますので、難産を起こさないように乾乳時のボディコンディションが過肥にならないようにします。また、カルシウムコントロール、濃厚飼料馴致など分娩前のクローズアップ期の飼養管理にも留意しなければなりません。低カルシウムは、しばしば、後産停滞や子宮の収縮を遅らせます。また、最近、話題になっていることのひとつに助産があります。とりわけ早すぎる助産がひどい難産の原因となっている場合がありますので、正しい助産を獣医師に相談するといいでしょう。いずれ難産してしまった牛は子宮内膜炎などのリスクも大きいので、フレッシュチェックなどで獣医師の診断を受けるのがいいでしょう。

次に、184号牛のように難産が原因でなく、授精が遅れている場合は分娩後の飼養を確認します。飼料の食い込みが十分かどうか、適切な濃厚飼料を与えているか、盗食されていないか、群飼であればいじめられていないかを確認します。夏期であれば暑熱による採食量の低減等の夏バテがありますので、送風などを確認します。十分な飼料を食い込んでいるかどうかは、牛群検定成績の蛋白質率で判断するといいでしょう。授精適期である泌乳前期は最低でも2.8%、できれば3.0%を示せば、十分に濃厚飼料を食い込んでいると言えます。

最後に150号牛や170号牛ですが、分娩後200日もたって初回授精を行っていないわけですから、繁殖障害をおこしているか、淘汰予定牛かのいずれかになります。

これは指摘することもなく、農家自身が気づいていることでしょう。

(補足 成績表の様式)

検定成績表には3通りの様式があります。ここでは搾乳日数順で牛を並べた様式Aを紹介しています。様式Aでは分娩後45日目と150日目に太い実線が引かれているので、初回授精の遅れを容易に判断することが出来ます。また、群のなかで遅れている牛がどれくらいの数があるかなども同時に把握することが出来ます。様式Aが牛群の飼養管理を考えやすいため、9割を越える検定農家が様式Aを利用しています。様式B、様式C(成績表右上にABCが表示されています)をご利用の検定農家は、様式Aへの変更をご検討ください。

問合せEメールtoiawase@liaj.or.jp

改善が必要な検定成績の見本

牛コード	分娩				搾乳又は乾乳日数	繁殖の状況				
	年月日	産次	産性別	難産		授精月日	回数	ET	分子	純日
0187	241105	1	♂	1	7					
0186	241016	1	♀	1	27					
0179	241006	2	♀	2	37					
0177	240824	2	♀	2	80	10.24	6			
0185	240814	1	♀	2	90	10.24	1			
0184	240811	1	♀	1	93					
0174	240730	2	♀	2	105	10.27	1			
0183	240723	1	♀	5	112					
0176	240720	2	♀	1	115	10.13	1			
0167	240531	2	♂	2	165	11.03	3			
0173	240514	2	♀	1	182	10.18	1			
0182	240514	1	♀	1	182	08.23	1	250219		
0152	240306	4	♀	1	251	10.03	2			
0150	240226	4	♀	2	260					
0170	240201	2	♀	1	285					
0163	240113	3	♂	2	304	05.16	2	250219		
0171	240106	2	♀	1	311	04.25	3	250129		

改善ポイントの184号牛と183号は初回授精が遅れています。こういった場合は、発情見逃しでなければ、子宮回復の遅れ、鈍性発情等であることが多いようです。

150号牛と170号牛は淘汰予定でなければ、繁殖障害と判断できます。

<覚えておくと便利な記号>
検定成績表で様式Aを利用している場合は、搾乳日数の順番で牛が並んでおり、分娩後45日目と150日目に太い線が表示されます

改善ポイント